

自律学習における ICT 機器活用の可能性

教育デザインコース 国語領域
井上 睦未

1. 研究動機

昨年度まで私立の中高一貫校で国語の教員として教壇に立っていました。電子黒板が導入され、授業でも少しずつ活用されるようになりましたが、使い勝手の悪さと準備の手間から先生方の間では敬遠されていました。ICT 機器を教育に取り入れていこうという風潮の中、現場ではあまり歓迎されておらず、もったいないと感じていました。そこで、せっかくハード面の整備が進められている ICT 機器をより効果的に学習に役立てることはできないかと考えました。

また、これは ICT 機器に限ったことではありませんが、学校の授業の中で教えられる・学べることには時間的な限界があり、より学習の幅を広げるためには授業外での生徒自身の学習が不可欠です。そのため、生徒の自律学習を広げるきっかけを授業内で与えていきたいと考え、そこには ICT 機器の存在がとても重要な働きを担ってくれと思い、今回の教育インターンなどのテーマを「自律学習における ICT 機器活用の可能性」としました。

2. ICT 機器の教育への導入

[参考]

- ・教育の情報化に関する手引 文部科学省 平成 22 年 10 月
- ・「中高生の ICT 利用実態調査 2014」ベネッセ教育総合研究所（プレスリリース 2014 年 12 月 9 日）

3. 教育インターン実施報告

「生徒が自身の力で調べものをしようと思った時に、ICT 機器を用いてどの程度の調べものができるのか、使用するソフトやそのレベルの実態を把握する」という目的のため、那須高原海城中学・高等学校において、高校 2 年生を対象に授業内でアンケートと調べ学習を行わせていただきました。生徒は自律学習において ICT 機器をほとんど使用しておらず、様々なデータベースについても存在を知らない、ごく単純な名前検索程度しか情報を得られず、そこから発展しない、という結果が得られました。授業から 2 週間後のアンケートでは、自律学習に ICT 機器を使う生徒の数は増えたものの、授業や自律学習において積極的に ICT 機器を使おうという生徒は依然として少ないままでした。

4. 今後の研究の展望と課題

今回、授業でアンケートや調べ学習に取り組んでもらうためのターミナルとなる HP を作成し、リンクを貼ることでデータベース等に直接アクセスできるようにしました。このように、生徒に使ってほしい学習ツールは授業内で紹介することがとても重要であることが今回のインターンで実感できました。今後、ICT 機器を学習に活用していくために、学校教育における学年別の学習目標に合わせた ICT 機器による学習方法や目標のモデルを作成していきたいと思っています。

